



第1回

日本福祉大学の研究シーズと 産官学連携による 福祉用具開発・バリアフリー建築開発セミナー

2022年9月30日(金) 13:45 – 16:30 (開場 13:20)

ウィンクあいち (愛知県産業労働センター)

1102会議室

参加人数：100名 (応募締切9月26日、ただし

参加費：無料 先着順で定員に達し次第締切)

ヘルスケア・福祉用具開発・バリアフリー建築などに
興味をお持ちの企業・医療・福祉関連団体・行政・公的機
関・大学の皆様など、どなたでもご参加いただけます。

日本福祉大学の健康科学研究所は、リハ
ビリテーション・介護、支援技術(アシス
ティブテクノロジー)、生活環境などの分野
で、さまざまな実践的研究や企業等との共
同研究を行っています。今回は、福祉用具
産業の現状等を事例を交えてご紹介した上
で、研究所教員の研究シーズや企業等との
取組事例をご紹介し、新たな産学連携に向
けた活発な交流の場を創出します。

【第1部】福祉用具産業等の現状と事例紹介

福祉用具産業等の現状とイノベーションの創出
に向けた福工連携
～愛知県ウェルネスバレー地区の取組事例を交え～
大府市 産業振興部ウェルネスバレー推進室長
戸田 稔彦 氏

愛知県内企業の取組事例報告
アイサーブ排泄検知システムの開発
新東工業株式会社 開発本部
開発グループ主任担当員 白木 正孝 氏

【第2部】日本福祉大学の研究シーズ紹介 (日本福祉大学健康科学部教員)

介護労働者の腰痛予防対策と産官学民協働の必要性
富田川 智志 (介護学専攻 講師)

利用者視点からの支援機器開発
渡辺 崇史 (福祉テクノロジーセンター・情報工学専修 教授)

福祉分野におけるAI技術の活用
串田 淳一 (情報工学専修 教授)

避難安全のバリアフリー計画と福祉施設建築支援への取組み
村井 裕樹 (建築バリアフリー専修 准教授)

運営方法・利用者ニーズを踏まえたバリアフリー建築
毛利 志保 (建築バリアフリー専修 准教授)

【第3部】情報交流会

お申込みはこちらから



<https://bit.ly/3cOYH6y>

主催：日本福祉大学 健康科学研究所・福祉テクノロジーセンター 共催：愛知県
後援：ウェルネスバレー推進協議会

第2部でご紹介する日本福祉大学健康科学研究所の研究内容

介護労働者の腰痛予防対策と 産官学民協働の必要性

富田川 智志（介護学専攻 講師）

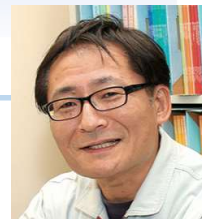
- 介護労働における腰痛予防対策に関する国際的な考え方と好事例を紹介し、産官学民協働の必要性について提言します。



利用者視点からの支援機器開発

渡辺 崇史（福祉テクノロジー
センター・情報工学専修 教授）

- 多様な利用者ニーズや個性に対応するための支援機器の開発や、ICT利用によるものづくり等についてお話しします。



福祉分野におけるAI技術の活用

串田 淳一（情報工学専修 教授）

- 近年、AI(人工知能)は身近なサービスでも使われるようになりましたが、その中には様々な技術が内包されています。発表では福祉の分野でも活用が期待される機械学習について紹介します。



避難安全のバリアフリー計画と 福祉施設建築支援への取組み

村井 裕樹
(建築バリアフリー専修 准教授)

- 災害時の安全をバリアフリーの視点考える建築計画の研究の紹介と、福祉施設の建設支援の実践事例について紹介します。



運営方法・利用者ニーズを 踏まえたバリアフリー建築

毛利 志保
(建築バリアフリー専修 准教授)

- スタッフの動線や利用者ニーズを踏まえた高齢者施設や特別支援学校、ホテル・旅館の計画についてお話しします。



※ セミナー御参加にあたっては、マスクの着用や手指の消毒などご協力をお願いいたします。また発熱など体調が優れない場合は、参加をご遠慮ください。

お問合せ：

日本福祉大学 研究課

(担当：朝川、榎本)

〒470-3295 知多郡美浜町奥田

tel: 0569-87-2324 fax: 0569-87-3973

e-mail: kenkyu@ml.n-fukushi.ac.jp

会場案内

ウィंकあいち (愛知県産業労働センター)



名古屋駅より

JR名古屋駅桜通口から

ミッドランドスクエア方面 徒歩5分

ユニモール地下街5番出口から 徒歩2分